

# 平成23年度 事業報告

## はじめに

東北地方を中心に甚大な被害をもたらした東日本大震災から一年以上が経過したが、今もなお、多くの方々が不自由な生活を余儀なくされており、一日も早い復興が望まれる。また、その際の原子力発電所事故により、電力不足への対応のための計画停電・節電が実行され、原子力発電に依存した電力供給体制のあり方が議論されるなど、影響が広範囲に及んでいる。日本経済においても、欧州経済危機に端を発する世界的な金融不安により円高が進行し、輸出産業を中心に大きな打撃を受けている。加えて、震災復興の財政負担がさらに増加することも踏まえ、今後の日本政府の政策動向に注視していく必要がある。

このような状況の中、平成23年度は、当協会の今後を大きく左右する重要事項を決定及び実施した年度となった。まず、平成23年7月1日付で基本財産の自己出捐増額を行い、神戸市外郭団体の枠組みから外れるとともに、組織運営の自律性を高める礎とした。また、平成23年11月24日開催の理事会・評議員会において、平成25年4月1日付での公益財団法人移行を目指すこと、及び灘区岩屋北町における新館建設に関して、平成25年11月竣工を目標とし、平成24年8月頃に建設着工することが承認された。

事業面に関し、まず、予防医学普及事業においては、恒例となった「いきいきライフセミナー」、「予防医学フォーラム」、「がんをよく知るための講座」を開催し、予防医学の普及啓発に努めた。また「ストレス スクリーニングの開発」についても、引き続き調査・研究に努めた。

また、健診・検査事業においては、平成22年7月に発覚した明石市職員健康診断虚偽報告に関する件の影響による継続契約の減少、また、神戸市市民健診の一会場の実施主体が他機関に移されたことや生活機能評価制度の廃止などにより大幅な減収が予想されたが、働く世代の大腸がん検診業務の受託や出張健診における新規受託、協会けんぽ健診を中心とした受診勧奨などに努めた結果、前年度並の収入を確保することができた。一方、支出面において、職員の健康保持を目的とした超過勤務削減策や見積り合わせによる薬品材料の購入価格抑制などにより、一定の経費削減効果は得られた。今後、新館建設等高額投資案件も控えており、さらなる経費の合理化を図るとともに、精度管理やサービスの向上を図る必要がある。

今後の当協会を取り巻く環境は厳しい状況が続くが、公益財団法人移行を目指して健診・検査データの集計・分析及び情報提供にかかる体制を充実・強化するとともに、新館建設に伴う減価償却費などの増加に対応すべく、受託先の確保にも努め、経営基盤を安定化させることを通じて、信頼される健診・検査機関としての地位を確立し、県民の健康づくりを支援する役割を果たせるよう努めてまいりたい。

# 事業の概要

## 予防医学普及事業

### 1. 健康教育情報の収集

関係行政機関、医師会、予防医学事業中央会、全国労働衛生団体連合会との連携ネットワークを通じて健康教育情報の収集を行い、健康教育推進のための資料として活用した。

### 2. 健康教育の推進

当協会が推奨する各種媒体(リーフレットやパンフレット類)を活用して、講演会・研修会をはじめ、健診の事後指導の機会をとらえて、予防医学知識の普及に努め、併せて一次予防としての健康管理のすすめ方等について指導教育を行った。

医師、保健師、管理栄養士等による教育、研修の実施

リーフレット等の配布

パンフレット等の配布

### 3. 広報活動

機関誌「あすの健康」82号～85号を発行した(延べ16,000部)。また「産業保健情報誌」については26号～27号を発行した(延べ3,000部)。

### 4. セミナー、フォーラムの開催

#### (1) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。

日 時 平成23年9月10日(土)午後2時～4時

場 所 神戸新聞松方ホール

講 演 テーマ 『「幸」年齢を生きる』

講 師 兵庫県予防医学協会 保健指導センター長 南部 征喜 氏

対 談 南部 征喜 氏

聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏

健康表現体操 指 導 当会健康推進課職員

後 援 兵庫県/神戸市

参加人数 468名

#### (2) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学思想の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。

日 時 平成23年11月5日(土)午後2時～4時

場 所 神戸新聞松方ホール

講演 テーマ 健康は「健口」からはじまる  
- 口腔衛生のいま -  
講師 神戸常盤大学短期大学部  
口腔保健学科教授 足立 了平 氏  
対談 足立 了平 氏  
聞き手 元神戸新聞論説委員 古山 桂子 氏  
後援 兵庫県 / 神戸市  
参加人数 335名

### (3) 働く人の健康管理研修会

平成8年度より、事業所等における従業員の健康管理をサポートするために、労働者健康福祉機構兵庫産業保健推進センターの後援を得て、年2回開催している。

テーマ 「職場のメンタルヘルス うつの対応とヘルスプロモーション」  
日時 平成23年7月6日(水) 午後2時30分～4時30分  
場所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室  
講師 神戸市こころの健康センター 医師 三好 彩 氏  
参加者 75名

テーマ 「メンタルヘルスにおける職場復帰に活かせる援助とは  
コミュニケーションスキルを学ぶ」  
日時 平成24年2月17日(金) 午後2時30分～4時30分  
場所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室  
講師 梅花女子大学 心理こども学部 准教授 瀧本 優子 氏  
参加者 68名

### (4) がんをよく知るための講座

日本人の死亡原因のトップである“がん”についての正しく新しい知識を学び、がんの予防と早期発見を目指し神戸新聞社との共催で平成10年度より開催している。

テーマ 「甲状腺がんについて」  
日時 平成23年7月21日(木) 午後2時～4時  
場所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室  
講師 兵庫県予防医学協会 常務理事 池窪 勝治 氏  
参加者 42名

テーマ 「口腔がんについて」  
日時 平成24年3月7日(水) 午後2時～4時  
場所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室  
講師 神戸常盤大学短期大学部  
口腔保健学科教授 足立 了平 氏  
参加者 53名

## 5. ストレス スクリーニング方法の開発

成果主義や格差社会等、近年の職場環境の変化はメンタルヘルス領域に大きな問題をもたらしており、うつ病や適応障害等の早期発見・ケアの重要性が問われて久しいが、疾病の特性から取り扱いに困難性が勘案され対策は進んでいない。この間、企業においては確実に「心の病」を抱える社員が増加している。

身体面においてはすでに特定健診・特定保健指導が実施され、健康増進施策における一次予防の重要性が認識されている現状において、一次予防の視点からのメンタルヘルス対策を構築することも急務である。

当協会では、平成20年度から心の病の一次予防のスクリーニング方法、並びに精神体力の改善方法を確立するために、当協会の人間ドック受診者から得られたアンケート情報を解析し、ストレスがかかった場合（警告期）の自覚症状の特徴と日常生活およびメタボリックシンドロームとの関係について明らかにした。

今年度は、前年度までに得た結果のうち ストレッサーの少ない女性にストレス症状が多い点 男性の場合ストレッサーが有る場合のストレス症状の出現に休養の「休」および体重変動が影響する点について、詳細な検討を行い、一次予防を目的とするリスク評価法の開発を行った。

## 健診・検査事業

### 1. 健診事業

#### (1) 学校保健

神戸市教育委員会をはじめとする県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人から委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健法に基づく心臓検診・腎臓検診・脊柱検診・結核検診等を4月から7月の1学期に概ね実施した。

本事業は国の将来を担う児童・生徒の健康保持増進を目的としており、健診検査の正確性がより求められる中で、繁忙期の短期間に非常に多くの児童・生徒の検診を実施しなければならず、大変厳しい状況下ではあった。しかしながら、より円滑に健診を行うためのきめ細かな取り組みに努めたことが評価され、継続受託に加えこれまで契約に至っていなかった大学等の新規受託もあり、受診者数は前年度に比べ増加した。

#### (2) 産業保健

事業所や自治体等の職場において実施する健康診断は、働く人の健康管理の根幹として位置づけられている。今年度は従来どおり法定の定期健康診断・特殊健康診断とがん検診等を含んだ生活習慣病予防健康診断を中心に実施した。

入札制度や見積り合せ等の結果により、契約に至らなかった受託先もあったが、大部分の受託先において当協会の対応・精度が評価され、継続受託に繋がった。

また、新規の受託先からは、当協会の迅速かつ丁寧な対応が評価されており、これを維持しつつ、今後はより多くの業務受託に向けて、効率性の改善に積極的に取り組んでいくとともに、健診で得られたデータの情報発信にも積極的に取り組んでいく。

### ( 3 ) 地域保健

公衆衛生を担う健診機関として、神戸市をはじめ県下の各自治体から委託を受け、高齢者、自営業、主婦等を対象に、特定健診・特定保健指導、結核健診、胃がん・乳がん・大腸がん検診等各種がん検診及びA I D S ・ S T I 検査を実施した。多くの方に受診していただくため、広報活動を積極的に行うとともに、受診者サービスの向上に努め、さらに受診しやすい環境づくりを推進した。

神戸市から受託した神戸市市民集団健診では、休日の実施や午前午後通じての実施回数増による受診しやすい環境づくりの推進及び新規オプション検査項目の追加設定による受診者サービスの向上に努めた結果、多くの区において受診者数が増加した。また、健診会場において、保健師によるがん検診受診率向上のための受診勧奨を積極的に行い、胃・乳がん集団検診の受診者数が増加した。

また、A I D S 及びS T I 予防を目的として平日の夜間に実施したH I V ・クラミジア・梅毒検査は、前年度と比較して実施回数は変わらないものの受診者数は約100名増えた。また、休日の午後実施しているH I V 即日検査は、実施回数を2回増加し、受診者数は約40名の増となった。

さらに、今年度は国のがん対策としての新規事業「働く世代の大腸がん検診」が実施され、神戸市をはじめ西宮市・芦屋市からの委託を受け、郵送法により実施した。受診勧奨を行うなど受診率の向上に努めた結果、多くの受診があった。

### ( 4 ) 特定健診・特定保健指導

「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、医療保険者に義務付けられた「特定健診・特定保健指導」は、労働安全衛生法の定期健康診断との整合性が図られており、従業員等の被保険者に対して、事業主と連携した受診勧奨を行った。また、市町村国保から受託する国民健康保険被保険者向けの集団健診では、休日の実施や午前午後通じての実施日程回数増を行うとともに、健診会場・健診日程を増やし、受診者数の増加を図った。

特定保健指導に関しては、健診会場と同じ会場での設定や遠隔地対象者への対応等、受診者が参加しやすい環境づくりに努めた。また、神戸市市民集団健診では健診会場に保健師コーナーを設け、特定保健指導の受診勧奨を行った。今後もさらに充実した受け入れ体制の整備を図るとともに質の高い保健指導の提供に努める。

### ( 5 ) 総合健診

日本総合健診医学会優良総合健診施設や労働衛生サービス機能評価の認定機関として、健康保険組合や事業所また県民・市民を対象に、各種総合健診と協会けんぽ生活習慣病予防健診を健診センターと健康ライフプラザで実施した。受診者の多様なニーズに対応し、2時間・半日・レディース・脳・一泊等のコースに加え乳房線検査・乳房超音波検査・胸部C T 検査・頭部M R 検査・P S A 等の腫瘍マーカー等、各種のオプションを幅広く選択できるシステムとしているが、健康保険組合の助成事業の縮小などの影響により、総合健診では受診者数の減少傾向が続いている。

一方、協会けんぽ生活習慣病予防健診については、受診率の低い県下の現状に鑑み、中小零細の事業所への健診制度の広報と受診勧奨に努めた結果、前年度よりわずかではあるが受診者数が増加した。

今後、公益法人として各種健康保険組合や協会けんぽ加入事業所の多様なニーズに応え、より多くの方々の受診機会の拡大に貢献できるよう実施体制の充実に努める。

## 2. 検査事業

### (1) 細菌検査

腸内細菌検査は、他の検査機関との競合が厳しく、平成21年度以降の受託件数が減少傾向にある。今年度については前年度に比べ約11,970件の増となったものの、依然として検体数は少ない状況であった。今後も継続してニーズに対応する付加価値（食品検査・衛生調査・精度重視）の充実を図り、検査件数の増加に努める。

また、神戸市保健所からの腸内細菌検査や喀痰緊急検査については、今年度も引き続き検査を受託し、保健行政の一端を担った。

### (2) 細胞診

子宮がん細胞診における今年度の神戸市からの受託検査数は約32,880件であり、前年度より約2,100件減少し、「女性特有のがん検診（無料クーポン券）」が開始された平成21年度と比較すると約900件の増加であった。医療（保険診療）分は約2,700件減少したが、受託した約6,930件のうち約2,160件を液状検体処理法（LBC法）で実施した。当協会内部検査分での約7,720件と合わせ、液状検体処理法導入初年度は、検査数約9,880件、要精検数約400件、要精検率4.13%、検体不適正率1.2%という結果であった。

喀痰細胞診における今年度の神戸市からの受託検査数は、前年度と比較して約200件増加して約7,320件、当協会内部検査分については約200件減少して約1,140件、喀痰細胞診全体としてほぼ同数となった。

今年度は、子宮がん細胞診において、報告様式に全件ベセスダシステムをクラス分類へ併記し、液状検体処理法を導入した。今後も、新たな業務を円滑に遂行し、喀痰細胞診とともに検査精度の維持・向上と受託先の信頼確保に継続して努める。

### (3) 環境測定

環境測定事業は、労働安全衛生法に規定される有害物取扱事業場の作業環境測定を中心に作業場所あるいは居室を対象として、今年度は約1,100箇所の測定を実施した。作業環境測定の年間延べ単位作業場所数は、印刷、洗浄、塗装など有機溶剤を対象とする測定が59件と最も多く、次いで医療関連の施設で使用される滅菌用エチレンオキシドやホルムアルデヒドなどの特定化学物質の58件であった。

何れの作業においても小規模な作業場所が多く、使用量、作業頻度ともに多くないケースがほとんどを占めるが、作業者の健康を管理する上で特殊健診と合わせて必要不可欠な測定であり、今後も継続して実施する。

### (4) 水質検査

水質検査の今年度実施件数は、水道事業者からの受託が大きく減少した影響により、水道法に規定される水道原水、浄水及び給水栓水等の水質検査では約690件、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査及びプール、公衆浴場等衛生管理上の検査は約2,820件、工場排水検査や環境基準等の計量証明検査は約440件であり、合計約3,950件であった。

また、貯水槽水道検査では、今年度は県下の水道法に規定される簡易専用水道約4,210件及び

有効容量が10m<sup>3</sup>を下回る小規模貯水槽水道約1,010件、その他準用等を含め合計約5,250件の検査を実施した。ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設では水道設備の衛生的な維持管理が義務付けられており、検査結果は年度ごとに集計し所管の自治体に報告することとなっている。今後も国が目標とする「安心で安定した水道水の供給」の一端を担うとともに、個々の設置者に対しては検査結果に基づく種々の助言を行うなど施設の衛生的な維持への啓発にも努める。

#### (5) 食品検査

食品営業者の自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査で延べ項目数が約2,460件と前年度に比べて減少し、微生物検査でも僅かに減少が見られ約8,630件、延べ検査項目件数の合計は約11,090件であった。

理化学検査では保存試験における油脂変敗試験や一般栄養成分分析での減少が見られたが、動脈硬化等の心臓疾患のリスクを高めることが危惧されているトランス脂肪酸測定など新たな検査項目への対応を開始した。

細菌検査では保存試験での大口受託先の件数減が未だ影響しているが、生食用食肉の新規規制や腸管出血性大腸菌、サルモネラなどの食中毒対策への関心は高く、施設衛生調査や自主衛生管理検査など食品営業者への検査勧奨を継続して行う。

### 3. 健康ライフプラザ事業

神戸市健康づくりセンター「健康ライフプラザ」は、市民に自主的な健康づくりの場を提供するとともに、市民の健康づくりを運動、栄養、休養等の総合的な面から支援する事業を実施することにより市民の積極的な健康増進を図ることを目的として運営している。平成18年度には、「指定管理者制度」に移行したが、当協会が指定管理者として当施設を管理運営してきた。今年度は2期目の2年目となり、これまでの経験とノウハウを生かしつつ、更なる事業の質の向上を目指した運営を行った。

#### (1) 健康づくり事業

健康学習として、「土曜健康科学セミナー」では最新の医療や健康に関する知識や情報を、「健康づくりセミナー」では食育や健康づくりに関するトピックス的なテーマを取り上げ、講演会形式で実施し、市民からはわかりやすく興味深いと好評を得た。

教室事業は、開催の時間帯や曜日、回数などに変化をもたせ、年代や性別、個人の体力や知識レベルにあわせて選べるよう工夫した。トータルコースでは、特定の疾病の予防を目指した「骨粗しょう症予防運動教室」「尿もれ予防体操教室」を、ライフキッチンコースでは、料理を学びながら食生活と健康について考える「料理の基本のき」「簡単！お役立ちメニュー」を新しく企画し開催した。

トレーニングジムの運営では、市民の健康づくりのサポートを第一に、健康運動指導士や健康運動実践指導者等を配置し、高齢者や障害者等に対しては初回説明会で個別指導を行うなどより安全で高度な指導を実施した。また、スタジオレッスンでは、高齢者や障害者に利用しやすいプログラムを準備するとともに、利用率を高めるための新規プログラムを企画した。その結果、一般利用者、減免利用者共に前年度比較して3～5%の増となった。

## (2) 健康づくり支援事業

事業所や健康保険組合等へ保健相談・栄養相談・体力測定等の健康づくりプログラムを提案し、保健師・管理栄養士・健康運動指導士等を派遣、実践を伴う健康教育を行った。特に、特定保健指導の対象から外れる若年層の健康教育の依頼が多くあった。一方、健康ライフプラザのライフキッチン・研修室等を活用し、実習に重点を置いた企画も行い、好評を得た。

## (3) 健診事業(診断証明書付健康診断)

就職、就学等で必要となる診断書の発行に際し、受診希望者の要望に広く応えるため、土曜・日曜に受診枠を設けるとともに報告期日を短縮するなど受診しやすい条件を整えた。

## 4. 施設・設備機器及び健診・検査用システムの整備

事業の円滑な遂行及び業務の改善を目的として、次の機器等の整備を行った。

デジタル胸部X線検診車

デジタル胸部X線撮影システム及び読影用モニター

受診票・問診票読み取り汎用OCR装置一式

心音心電計

負荷心電図装置

超音波画像診断装置

超音波骨評価装置

便潜血自動免疫化学分析装置

ガスクロマトグラフシステム

# 事業実績明細

(単位：件)

事業名	種別	内容	実績	前年度実績
健診事業	学校保健	一般健診	76,255	74,710
		腎臓・糖尿病検診	328,505	299,456
		寄生虫検査	119,537	55,429
		心臓検診	78,161	79,038
		脊柱検診	32,300	31,911
		結核検診	46,204	48,637
	産業保健	一般健診	142,865	138,916
		特殊健診	16,921	17,005
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	21,812	20,938
		がん検診	22,599	21,682
		結核検診	464	807
		労災二次健診	141	111
	地域保健	がん検診	101,400	77,646
		結核検診	50,851	49,619
		その他受託検査	2,516	5,733
	特定健診 特定保健指導	健康診査	48,606	51,673
		保健指導	379	532
	総合健診	総合健診	8,450	9,170
その他	予防接種	1,410	1,279	
	精密検査・保険診療	3,542	2,837	
合計			1,102,918	987,129

検査事業	細菌検査	腸内細菌検査	118,390	108,816
	細胞診検査	子宮がん・喀痰細胞診	60,306	65,165
	環境測定	環境測定	1,109	1,081
	水質検査	水質検査(一般)	2,828	3,131
		水質検査(20条)	693	1,189
		水質検査(環境計量)	442	425
		貯水槽水道検査	5,256	5,094
	食品検査	食品検査	11,092	11,661
合計			200,116	196,562

健康づくり事業	トレーニングジム	99,236	95,613	
	卓球コーナー	5,514	5,260	
	健康づくり教室	7,501	8,298	
	貸室	101	110	
	健診事業(診断書交付)	91	95	
合計			112,443	109,376